



私の産湯には、この池の水が使われた。

火の国阿蘇の
恵みのブランド

灸
zen
A s o C i t y

数十年に一回、土用三日の日(夏の土用入り三日目)にこの神社の池に乳白色の水が湧く。

「物質的にまだ完全には解明されていないといわれます」

日々、境内の世話をしている総代・山本敬一さんも

その目でしかと真っ白い池を目撃した。

それは数分後に透明に戻る。

神社創建は二百数十年前、熊本(肥後)藩士三淵永次郎による。

白き池とはまた貴きこと、これは乳の神。

美しい女神豊玉姫毘売命が祀られた。

「私の産湯には、この池の水が使われたそうです」

八十数年前に生を受けて以来の付き合いということになる。

数年前、脳梗塞で倒れた。

妻が毎日神社にお参りをし、

この水を届けてくれ、三ヶ月間飲みつづけた。

「そのおかげで、ほら……」

後遺症ひとつ残さず完治して、壮健そのものである。

産神社総代 山本敬一

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。